

2019Japan National Team Report ” サポーター”



J.O.D.A.
JAPAN OPTIMIST
DINGHY ASSOCIATION

報告者氏名	上原 啓
大会名	北米選手権
開催地	バハマ ナッソー
大会期間	9月26日～10月5日

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA理事会にて確認の後に、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について

このレポートを補足する資料として必要な場合は、文中に貼り付けて下さい

開催地域の様子	被災の程度を心配したが特に見当たるところが無く良かった。ホテルはリゾートホテルでありハーバーにもプールがあり自由にはいれるなどリラックスした中での大会運営を感じた。温暖な気候で常時風が吹いており意外と過ごしやすかった。この時期天候は良くスコールがたまにあるがすぐに治まった。治安的に悪い場所もあるが大会関連での動線上では特に心配は無かった。ホテルからハーバーの移動も大会バスで行われ帰宿後の時間もホテルエリアでの活動で十分満足するものである。サポーターはタクシーで移動した。ただ、物価は高めだ。特にホテルエリアは高い。
宿泊場所	セレブリゾートといった豪華別荘地のあるアイランド内ホテルでありリゾート施設としても南国の雰囲気のある緑やアメリカンな建造物といった感じで趣向を凝らしたプール郡やホテル内の水族館など自由な時間を過ごすには時間が足りなく、お土産の購入時間や自由時間を確保するには後1日ぐらいの自由時間があればいいのにと考えるものであった。
大会のサポーターへの対応は	日本担当の方が付き、空港への迎えや現地でのサポート、毎日ではないが、観覧艇を出してくれるなど親切的な対応であった。
選手たちのコンディションいつもとどうでしたか？	水(飲料水の確保)や食料(選手の食事は大会側のバイキングを確保されていた)の衛生面での心配はなく特に発熱などの体調不良もなく良好であったと言える。食事のメニューはほぼパン食を中としたものである。
サポーターとして気をつけたことは？	おにぎりやカップ麺、味噌汁など捕食の支援(これは女性中心でした)役員さんの多忙なことへの支援(時間が取れない分の手助け)であるが思い返せば何も出来ていない。みなさん気を遣われるのもっと出来たことがあると後悔している。
海外の選手を見て感じたことは？	海外選手は基本的な運動能力(巧緻性が高く俊敏な能力)の高い選手が多いと感じた。(プールジャンプ台で遊ぶ姿を見て特に感じた)また、常に風のある地域海面で選考された選手は体格が大きく感じた。
日本の選手を見て感じたことは？	メンタル的に控えめで物怖じするところがレースにも反映しているのではないかと感じた。のびのびとチャレンジして欲しい。段々と雰囲気に慣れていくが、後手にならず、最初から集中力を発揮しガッツで力を出して欲しいと感じた。私もそうであるが、英語力の関わりが大きいと思う。

Spare dayの過ごし方は？	会場に入る事が出来たので、基本的にハーバーサポートであった。途中食事の買い出しにハーバーから徒歩5分で行けるスーパーに出向いた。有料の観覧艇に順に乗船できることもできた。一度半日かけて土産物を求めてタクシーで20分程の街にでかけた。
日本チームとしての課題はありましたか	強風や様々な波の海面でのセーリング能力を高めること。セーリング技能だけでなく普段からセーリングに見合ったフィットネスやメンタルトレーニングにも力を入れること。英語力の向上などを感じた。
JODAへの要望	特にありません。
その他	レース運営で、リコールナンバーがすべて把握できないのに、読めたナンバーだけ処理されたり、コールしていてもセールブラインドで読まれなかったものはDNFが付いたりと不公平感が否めなかった。日本選手に関わるものが複数あり、選手の心情に大きく関わるものであった。海外まで来てのレースで少し残念であった。いろいろとご支援、応援ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました
JODA海外派遣委員会